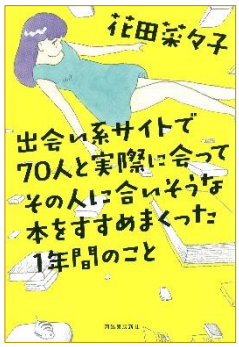
2021 年 2 月館員おすすめの本

『出会い系サイトで 70 人と実際に会って その人に合いそうな本をすすめまくった 1 年間のこと』（花田菜々子）

吉田　梨紗



著者は自分の人生の視野を広げるため出会い系サイト「X」に登録をして、目的を異性との恋愛に限定せず、その人に合いそうな本を紹介することにします。本をすすめるということは、その人のことや本のことを知らないとすすめられないし、理由なしではすすめられません。（p.62）

いろいろな人と出会い本を紹介するうちに、自分自身の人生を見つめなおすきっかけになり、新しい仕事や自信につながり前向きになっていきます。自分の好きなことを追求した先に、新しい世界がひろがり、気づかされることもあるのだと学ばせてくれる一冊です。　（河出書房新社）

『ガーンジー島の読書会』上・下（メアリー・アン・シェイファー）

原　真由美

イギリス海峡にあるガーンジー島は、第二次世界大戦中ドイツの占領下となり、島の人々は死と隣り合わせの恐怖に怯える生活を強いられました。けれど人々は工夫を凝らして生き、中でも監視の目を逃れて開く読書会は皆の心に潤いを与えます。本を読み、語り、議論しながらお互いに親密になり、明るく賑やかに過ごす時間は日々のつらさを忘れる楽しいひとときでした。ロンドンに住む作家ジュリエットは、島の歴史を本にしたいと訪れますが……。この本の魅力は、個性豊かな登場人物たちのユーモアから生まれる生きる知恵、信頼関係により結びついた力強さです。そして何より読書の力こそが、過酷な日々を乗りこえるエネルギーとなったことがわかります。　（イースト・プレス）

『嵐が丘』（エミリ・ブロンテ）

大久保美玲

緊急事態宣言が再び発令され、おうち時間が増えました。この機会に名作と呼ばれる文学にチャレンジしてみてはいかがでしょうか？　絶えず風が吹きつける嵐が丘と呼ばれる農場に建つ屋敷の住人ヒースクリフは、かつての主アンショー氏に拾われた孤児でした。ヒースクリフが嵐が丘を乗っ取りアンショー家を破滅させるまでの物語です。「礼儀も教養もない野蛮人」的側面を持つヒースクリフの振る舞いに目を覆いたくなる場面もありますが、アンショー家の娘キャサリンとの深い愛憎という普遍的なテーマが根底にあるため、読み進むにつれ引き込まれていきます。著者のエミリ・ブロンテは 29 歳で本書を出版した翌年、肺結核を患いながらも医師にかかることなく死を迎えたというエピソードは、ヒースクリフの最期と重なり、この物語の凄みをより一層増幅させます。

（角川文庫）